

岐阜県生活技術研究所では、
快適な生活空間の創出と地域産業振興のために
新材料・新製品の研究と技術支援を行っています。

- 研究成果発表会の開催について
- 報道発表について
- 研修開催報告
- 飛騨の家具®フェスティバル参加報告
- コラム：「あわい」という視点

研究成果発表会の開催について | ご参加をお待ちしています！

◆ 生活技術研究所 講演会および研究成果発表会

日時 令和8年9月30日（水） | 13:30～15:30
場所 岐阜県生活技術研究 3階研修室
定員 30名（定員に達し、ご参加いただけない場合はご連絡します）
参加費 無料
申込方法 下記URLもしくは二次元コードより
<https://logofom.jp/f/FZDyg>
申込締切 令和8年9月25日（金）



● 基調講演

座り心地を考える

～自動車シート開発における快適性研究とプロトタイプを参考に～

講師：日本発条株式会社 シート生産本部 開発部 松田大樹氏、味園真弥氏

● 生活研成果発表

- ① 家具生産設備の高度化と活用手法の確立
- ② オーク突板化粧材の変色抑制技術の開発
- ③ 超音波伝達法による木材の非破壊評価
- ④ 飛騨地域家具製造業向けの
木材データベースの構築

報道発表について | 捨てられる家具を資源へ。再生ボードの事業化を支援！

6月11日に、県政記者クラブ加盟各社の皆様に報道発表を行いました。
発表内容は、新聞各社でご紹介いただきました。

【内容】

株式会社エスウッドは当所の技術支援のもと、廃棄される家具材等を用いた
アップサイクルストランドボードの生産体制を構築しました。

本事業は、県の伴走支援型イノベーション創出推進事業により実施され、
当所では、導入機器の検討や試作品の性能評価等の支援を行いました。
これにより、これまで廃棄、焼却されていた廃材を再資源化でき、
廃棄物削減や炭素固定の効果持続が期待できます。



発表を行った酒井研究員

■ 製造フロー



廃棄予定の
家具天板（一例）



ヒノキチップ+廃棄材
混合原料



アップサイクル
ストランドボード



家具・内装・インテリアへ
アップサイクル

研修開催報告 | ご参加ありがとうございました!!

7月5日および12日に、専門技術研修を開講しました。
10名の方にご参加いただき、

「木材の基本特性」と、「家具の人間工学」

に関する内容の実習を交えた研修を行いました。

木材の基本特性



家具の人間工学



実習の様子

参加者の声

木材から人間工学まで知らないことが多く、楽しかったです。

実際に研究をされている方と対話しながら学べ、今後に活かしやすいと感じた。

深く学ぶことができ、目的以上の価値を感じられました。

2026飛驒の家具®フェスティバル参加報告 | ご来場ありがとうございました!!

6月17日～21日に2026飛驒の家具®フェスティバルが開催されました。当所もブースを出展し、昨年度の研究成果を展示しました。会場内には、飛驒地域の家具メーカーや個人工房が多く出展していましたが、当所の取り組みにも多くの来場者が関心を寄せてくださいました。

特に、研究成果として展示していた人間工学配慮設計の椅子が好評で、多くの方にその座り心地を体験していただきました。また、国産材の研究については、雑誌の取材を受け、写真掲載していただきました。



生活研ブースの様子

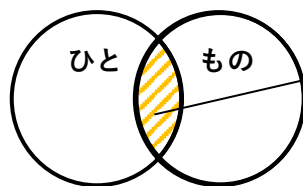
コラム：「あわい」という視点

心と身体、人と物——私たちは、物事を二項対立で理解してしまいがちです。確かに、このような区別は分かりやすいでしょう。しかし、そこにはどうしても切り分けられない曖昧な領域が存在するというのも事実です。日本建築における縁側はその最たる例であり、そこでは家の内と外が交わる曖昧な境界として、趣のある空間が成立しています。

このような領域は、「あわい」という言葉で表現できます。AとBとを「あわい」において問うとは、両者の輪郭や概念を明確にした上でその「間（あいだ）」を問うということではなく、両者が交わり重なった際の相関として考えるということです。

「ひと」と「もの」の関係を考えたとき、使用を重ねることで馴染みや愛着が生まれると、そのものは自分の一部に、さらにはアイデンティティの一部にもなりうるということが先行研究で示されています。つまり、「もの」でありながら「ひとの一部」でもあるというあり方が成立しているのではないかと考えられます。そして、このようなあり方は、「ひと」と「もの」の「あわい」として捉えることができるのではないかと考えられます。

「ひと」が「もの」を使用していくことで、両者の隔たりは次第に薄れて、やがて融合していく。この「ひと」と「もの」の「あわい」という視点は、もの作りにおける新たなコンセプトをもたらす可能性を秘めているかもしれません。



「ひと」と「もの」の「あわい」

生活研通信 No. 89

発行：岐阜県生活技術研究所 2026年8月

〒506-0058 岐阜県高山市山田町1554

TEL 0577-33-5252 E-mail info@life.rd.pref.gifu.jp

FAX 0577-33-0747 URL www.life.rd.pref.gifu.lg.jp

当所では、メール情報サービス「Hlt-news」により、様々な情報をお送りしています。
配信希望の方は、件名を「Hlt-news配信希望」として、上記メールアドレスへご連絡ください。